

## 第26回 揖保川流域委員会 審議結果速報

---

■日時：平成21年12月15日（火）15:00～17:00

■場所：たつの市青少年館 ホール

### 【委員会の主な内容】

河川管理者より、これまでの総括として第25回委員会までのまとめについて、説明が行われた。次に、平成21年8月9日出水による揖保川の被害状況等について報告が行われた。

### 【意見および質疑応答（これまでの総括、平成21年8月出水の報告）】

委員からの主な意見は以下のとおりです。

- 委員会が始まってから9年が経っている。この間に河川敷がどんどん人工化されることなどについて問題提起してきた。
- 今年8月の出水規模は、戦後の洪水の中でどのあたりにランクされるのか。
- 今回のように大きな洪水後のワンドや河原の現状はどうなっているのか気になる。
- 引原ダムは県の管轄と聞いているが、連携をとりながら放流など適正に行って頂きたい。
- 河原の立ち木等々の影響はあったか教えて欲しい。
- まちづくりの視点も含めて整備計画をまとめていただきたい。
- 治水目標を昭和47年7月洪水から昭和51年9月洪水に変更した経緯について、説明を聞きたい。
- 川づくりと住民による防災・減災へのアプローチなどソフトウェアとしての川の整備、住民環境の整備といったことについてどのように考えているか。
- 今回8月の出水で大きな攪乱により、かなり礫原が復活した状況にあるが、めったにない大きな事象に対して、一体どこがレキ河原になったのか、そのレキ河原になった地点の、どこで生き物が残ったのかということをも十分に把握していただきたい。
- 被害軽減のための局所的な改修というのは、前回の議論とどう対比するのか。被災の経験が新しい中で、再び昭和45年規模の洪水が起こったのに、昭和51年対応にすることについて、どのように地域住民の理解を得ていくのか。上中流の対応について、どのように進めていくのか。
- 整備計画メニューを実施後に、昭和45年や平成21年の降雨ではどのような被害が起こるかを改めて示すべきではないか。
- 8月出水対応の局所対策について掘削案が示されているが、このとおりに行うという方向ならば、環境問題がどうなっているのか気になる。

以上